

広島 - 都市の記憶

フレデリック・ロカ

- はじめに -

留学かてきるかどうか、日本の文部省からの決定を待ちながら、OK
なう、この大宇へ行かなくてく水るのかと考えていました。フランスでも広島に原爆か
決定か届き、広島大宇と成っているの、現在の広島はどうか、なっているの
なろうかと、日本に来る前からあこれ想像してました。戦争に
昭和20年8月6日、午前8時15分、歴史上初めて原子爆弾が戦争に
使われました。広島市の上空、高度9,600メートルから原子爆弾が投
下され、43秒後に爆発しました。発生した大火災によって、爆心地か
う半径約2kmの円内では、燃えるものは全て燃えつくしました。実際
には爆心地かう遠どかるにつれてほぼ同心円状に被害は少なくなっ
ていきますが、当時の全戸数の92%にのぼる建物か何らかの被害をうけま
した。

この時、爆心地では気温は3000~4000℃にも達しました。物的被害
は、二つの原因で引を起こされました。原子熱の放射と爆風です。ま
ず、原子熱のため、巨大な火災が起こりました。そして、爆風のた
めに、離れていて燃えなかつた家も吹飛ばされました。爆心地から半
径約16kmの円内では、木造の家窓か壊れまじり、コンクリートの建
物の場合、爆心地のすぐそばでは、ひび割れか入り、天井か全部崩れ
落ち、2kmまでは窓か完全になくなりまじり。そして、広島町は火
の海になりました。

しかし、そんな中に、広島市の一部はほとんどそのまま残りまじり。
それは、比治山という小さな山の蔭にある「段原」という地区です。
段原は比治山のおかげで、原爆の被害をあまり受けなかつたのです。
そのため、終戦後立てう水た広島市のいろいろな復興計画の中に、
段原についてのものはほとんどありませんでした。そのせいで、段原
は広島他の地区と比べて、また古いものか多く、生活については不
便なままなつたと言えまじり。そこで、段原の再開発事業かはじめら
れたのです。また計画は半ばです。

* * *

原爆の直後、広島は灰塵に帰したと言ってもいほどなので、ほと
んど全市を再建しなくてはなりません。戦災復興計画によると、
建設か決定を水た街路は北路線、大公園3、小公園32、緑地4、墓地
1、土地区画整理事業区域1322haなどなつてまじり。この計画には、
百メートル道路、70ha余の中央公園、後に「平和記念公園」と改称を
水る中島公園か含まれていました。また、昭和24年7月に「広島平和
記念都市建設法」という法律も成立しました。その法律の第一条に、

段原地区は、市中心部から南東へ約2km、JR広島駅から南へ約1kmの位置にあります。原爆投下時には、この地区の西側にある比治山の蔭となり、致命的な破壊から免れることができました。その反面、戦後の復興事業から取り残されたため、いろいろな問題が持ち上がりました。道路が狭く、救急車や消防車が通行できなくて困ることも多かったです。下水道管は地下に埋設されていなかったため、カ、ハエ、悪臭など、衛生上の問題もありました。また、若者たちが古く雑然とした段原に住みながらなくなくなり、活気のない地区になりました。



再開発以前の段原（北部、比治山蟹線に出る道）

このように住環境上多くの問題があることから、再開発が望まれるようになりました。そこで、昭和40年代に入ると、計画の原案が考案されはじめ、実際のスタートは、昭和46年1月、「段原土地区画整理事業」の決定を待ちました。この計画に必要な費用は、およそ1000億円で、30%は国が負担することになりました。計画では、旧国鉄宇品線を挟んだ約74haの区域を再開発することにしました。この区域は、南の国道2号線から北の比治山蟹屋線と猿川の方へ伸びています。このうち、特に緊急に整備する必要のある旧国鉄宇品線以西の地区約48haについて、昭和48年3月、区画整理の事業計画が決定されました。その時、道路計画は決まりました。また、昭和53年12月、住環境整備モデル事業が始められました。昭和58年11月、区域の南では、建物の取壊しがはじまりました。段原の再開発計画では、新しい街づくりの目標を立て、段原を生まれ変わらせるため、3つの事業が柱とされました。

- 1) 土地区画整理事業。
- 2) コミュニティー住環境整備事業。
- 3) 公共下水道事業。

第一の「土地区画整理事業」は、道路・公園・宅地整備などを整備する、ふるさとの顔づくりモデル土地区画整理事業による都市景観の整備です。

道路は、十分に広くして、人も車も安心して通れます。幅36mの中
 宇品線と幅25mの通りと
 のトンネルは、今年以前は、この地区の道
 路公園は、この地区に静かさを保ち、安全
 住宅地は、面するようになっています。住宅の
 道路に面するようになっています。住宅の
 のため、火事「コ」の整備です。昭和58年11月
 生活環境施設は、昭和58年11月に、国道2号
 沿いの個人住宅の間
 取り壊しは、この工事期間中
 の仮住まいとして、2DKか3DKで、70戸の
 予定で、現在土地から移転先へ、
 なる下良住宅の数は、718戸の予定で、
 物件を移すために必要土地を、みんなの
 土地を「減歩」といいます。減歩する場
 合は、個々の住宅の状況によって決ま
 る場合があります。住宅が市から買
 った調整します。

また、新しい家は、昔より建築費用が高
 くなっています。今では、家を高く引
 越した市営住宅に住む人は、市営住宅
 コミュニティ施設というの、集会所は、
 住民がぶらりと立ち寄り、お祝いや会
 合を開いたりする場所
 です。また、遊び場が、子供の遊び場
 が8つ作ら
 ないと多か
 るように
 第三の「公
 共下水道事
 業」は、下
 水道の整備
 です。おかけ
 で、虫や
 トイレも清
 潔な水洗に
 なります。

ある都市でびっぴりしました。47年前は、何もかもなくなっってしまったと思えて人でした。たぶん、すべてが新しいというよりは、古いものがどこかへ行ってしまったという事です。そして、原爆ドームへ行きました。この時、はじめてたまたまのでショックを受けました。それを見ながら何か起ったのかよくわかりません。平和記資料館へまた行ってもないのに、広島原爆直後の姿がよくわかるのです。しかし、原爆ドームのほかは、原爆の記憶が全然見えないので、本当に信じられないという感じがします。

広島は未来へ向かう以外にない都市となりました。国際化と平和を訴えつつ美しく生まれ変わったこの町で私も、と時間を過ごせばよか、と思えます。多くの人から話を訪ね、何かを考える機会をもってもらったものです。

参考文献

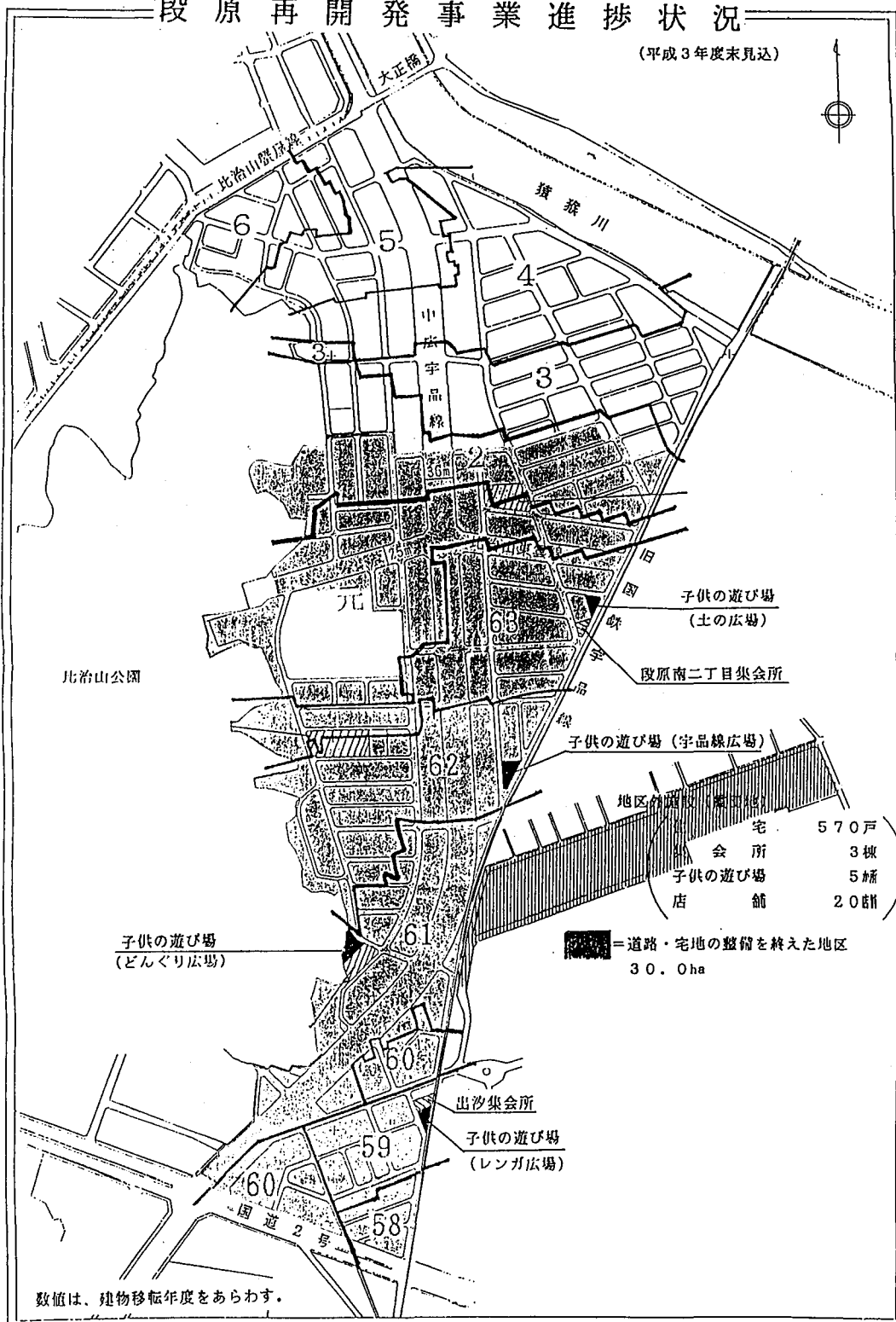
- ・ Aperçu sur les dégâts causés par la bombe atomique à Hiroshima, Musée commémoratif de la paix à Hiroshima, 1986.
- ・ 『国説広島市史』、広島市、1987年
- ・ 『広島・長崎の原爆災害』、広島市・長崎市原爆災害編集委員会、1979年

以上の文献以外にも多くの資料を見とてくださり、インタビューにに応じてくださった広島市都市整備局 段原再開発部計画課 課長補佐 桑崎清吾さんに心より感謝いたします。

(3) 進捗状況

段原再開発事業進捗状況

(平成3年度末見込)



(8)

公園

